

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	たんぼクラブ		公表日		2026年 2月 27日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	16		・定員が15名になり、以前よりも適切と感じることが増えた。	法定どおりのスペースをとっている。定員を減らした事で更に安全となった。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	16		・昨年よりも配置に余裕が見られていると思う。	法定以上の配置をとっている。個別対応が必要な児童が多いのでスタッフのパワーバランスに偏りがある事が課題。全員が同じ支援を行えるように研修や情報共有を十分にしている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15	1	・一人になれる相談室がある。	・視覚支援をより取り入れていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15	1	・スタッフさんが保育後の清掃を丁寧に行ってくれています。	吐しゃ物・失禁等、処理方法を研修を通じて学んでいるが、より迅速に処理するために研修と実践を継続する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15	1	・子どもたちが落ち着いて過ごせるよう環境調整に努めています。	個別の部屋に子どもが自由に出入りできてしまう。支援者の目が必ず届くように担当が付き添うようにしている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	14			日々、振り返りを行い次の支援に活かしているが、シフト時間外のスタッフには直接話し合いができていない。記録を見てもらい後説明で補う。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13			特に評価が低い項目について話し合いを行っている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16			支援後に振り返りの時間を作っている。参加できなかったスタッフには引き続き記録と後説明で補う。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	2		第三者の評価を行っているが周知に至っていなかった。今後は報告をする。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	16		・研修受講の機会が年に数回、定期的であり勉強になります。	わからない事、困っている事を発信せずに頑張ってしまう状況を感じる。個別面談や気軽に話せる環境づくりを心がけていく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15			公表の周知がもれないように徹底する
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	16			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15			主に担当するスタッフだけでなく、周りの意見も取り入れ共通理解のもとで支援ができるようにする。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	16			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12			日々の行動観察は支援記録で情報共有をおこなっている。更に確認しやすい方法を検討する。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14			日々の支援が必然的に5領域全てに繋がっている。個別支援計画に基づけるよう、研修や振り返りなどで気づきを持てるようにする。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14			もっとスタッフの意見を取り入れて協力していく
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15			集団活動は子ども達ひとり一人の状態が違うので内容の検討が課題。個別活動で寄り添った支援を行っていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	15			それぞれの障害特性によって集団活動が難しい。小グループで行うことを目標にする。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	14	1	・出勤時間が異なるので全員での打ち合わせは難しいが、少人数で行っている	打合せに参加できないスタッフに意見を聞きながら、チーム連携しやすい状態を作る。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14	1		・日々行なっています。職員が話し合った内容をアルバイトスタッフ全員に早く共有することが課題です。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	16			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15			話し合い（ケース会議など）で課題がある時には見直しを行っている。周知がもれないように気を付ける。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	13			日々の支援で満たされているが、ガイドラインの「4つの基本活動」があることを周知していなかった。研修などで発信していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	15	1	・自分で選択、決定ができるように待つ支援を心がけています。	研修やケース会議で取り扱いを継続していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14			児童発達管理責任者と担当者が参加している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14			学校、協力医と連携ができています
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	16			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	13			新1年生は保育所や幼稚園にご協力いただき、訪問見学をさせていただくことにしている。また児童発達支援事業所には情報共有をしている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	15			提供できる書類を整えている。卒業前に見学なども行っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	11			定期的な研修を受けている
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9	4	・公園などで地域の子どもたちと関わる機会がある。	・なかなか機会を持てずにいる。今後作ってきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	12		・理事長が参加し、職員へ内容を共有している。	参加者が職員へ共有を行っている
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	16			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	14			勉強会や保護者会を開いて機会を設けている

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14			契約時と変更時に説明している	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14			定期的な面談を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	14			対面にてご説明させていただくことにしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	16				
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	16				
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	16				
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	16			・発信の機会をより作ってまいります。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	16				
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	16				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	16			・夏祭りやクリスマス会で地域の方々をご招待しています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	16				
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15			避難訓練は定期的に行っている。BCP策定の見直しにかかわるスタッフが少ないので協力依頼を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	16				
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14			指示書と保護者の確認を常に行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15			ヒヤリハットにあがった内容をもとに研修と改善を行っている。訓練の曜日が決まっていたので誰でも行えるようにする。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16				
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	16			・日々共有、報告しています。	周知が漏れないように口頭でも発信していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	16			・スタッフ研修で確認しています。	研修以外にも振り返りなどで話題にしている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	15			・安全を守るため身体拘束を行なった場合の報告を徹底しています。	最善の方法をスタッフ、保護者と話しあうようにし、計画書に記載している。	